

国際文化研修 レポート

(1) プログラム全体について

このプログラムは衝撃的なスタートでした。海外研修だったので、他学部からも受講しているだろうと思っていました。しかし、教室のドアを開けてみれば、他学部は私1人だけでした。

プログラムの内容は、平日は、毎朝ヨガをしてから1日が始まります。朝食を食べ、ヒンディー語の授業です。そして、昼食の時間です。そのあとは英語の授業です。このあとは、歓迎会が行なわれたり、大学内で遊んだりします。バスでマンションへ帰ります。部屋にはボーイがいて、彼らが晩ご飯を作ってくれます。これが平日の1日の流れです。休みの日は、ボランティアの大学生と一緒に色々なところを訪れたり、買い物をしたりします。期間は2週間です。

ヒンディー語やインドについて何も知らずにインドへ出発するのも良くないので、数回みんなで集まり、事前学習を行いました。矢野先生が熱心に、わかりやすくヒンディー語の母音と子音を教えてくれたり、インドについて簡単に教えてくれたおかげで出発するのが楽しみで仕方なかったです。

(2) ヨガのクラスについて

私は、体が硬い方なので毎朝ヨガをするなんて苦痛だろうと思っていました。しかし、ヨガの先生はとても優しく、ヨガを楽しめました。日本では、こんなポーズしないだろ！！と言いたくなるような難しいポーズや簡単なポーズで体のストレッチをしたり、呼吸法を教えてもらいました。1日目、2日目は正直、適当にやっていたときもあったが呼吸法を学び、やっているうちにリラックスしている自分がいました。呼吸を整えることは大切なことだと気づきました。難しいポーズをやるとき、みんなの顔が引きつるくらい厳しかったのに、日を増すごとに顔の引きつきりも無くなり普通にこなしていました。ヨガの先生は、私たちがわかりやすいように頑張って覚えた日本語で説明してくれるときもありました。心身ともにリラックスできたので、ヒンディー語・英語ともに集中することができたのかなと思っています。ヨガ最終日は、総復習で1人1人違うポーズをして写真を撮ってもらいました。とても素晴らしい絵になっています。

(3) ヒンディー語のクラスについて

私たち京産生 1 人につきボランティアの学生が 1 人ついてくれる形で毎日 2 時間勉強しました。マンツーマンなので、わからないところはすぐに聞けるので心強かったです。しかし、質問は当たり前なことだが英語です。苦勞することも多かったです。2 人の先生が 1 時間ずつ交代で授業をやる形式でした。タイプの異なる先生方だったので、飽きることなく勉強できました。インド人は、外国人にヒンディー語で挨拶されると最高の笑顔で返してくれるとボランティアの方に教えてもらったので、校内にいた学生に話しかけてみました。すると、本当に最高の笑顔を見せてくれ、挨拶以降の会話がすごく弾みました。毎日宿題が出るので、すぐに覚えることもできるし、友達と問題の出し合いをすることで自然と身に付きました。ヒンディー語を教えてもらっているのに、逆に私たちはボランティアの方に簡単な日本語を教えました。お互い助け合いながら勉強していたので、良い雰囲気です。授業に臨めたと思います。

(4) 英語のクラスについて

英語もヒンディー語と同じように 2 人の先生が 1 時間ずつ交代で授業をします。1 人日本語が上手なボランティアだけ残り、英語の授業はボランティアの方なし、京産の学生だけで受けました。Language Game を毎日やっていました。他己紹介や対になる単語を探す、1 分間スピーチなど楽しみながら英語を学ぶという感じでした。文法の授業などは全くせずに、とにかく Game をして英語に触れる、と私は感じました。優しい先生方で答えが出ず、困っているときはすぐにアドバイスをくれました。最初の授業のときは、先生方の英語が全く聞きとれず焦っていました。しかし、毎日毎日聞いていると、徐々に、なんとなくわかってくるようになりました。先生方が最後の授業で私たちに言ってくれた言葉があります。この 2 週間やってきた Language Game を日本に戻っても続けてほしい。これをやることで英語の能力をキープすることも可能だし、上げることも出来る。この言葉を信じて、私はフリーな時間があるときは友達と Language Game をして英語に触れています。

(5) インド経済の授業について

私たちが通っていた学校の経済学部の教授の方が、インド経済についてレクチャーしてくれる日がありました。その講義で使うパワーポイントには英語と日本語の両方が書かれていたのでとてもわかりやすかったです。インドに着いてから若い人が多いなどは感じていましたが、インドの平均年齢が 20~25 歳だとは思わなかったです。インドは人件費がかなり安いです。インドのマクドナルドに行ったとき、そのときのレートで計算しましたが 45 円マックがあることに驚きました。日本では 100 円マックというものがありますが、このようなところも人件費に関わってくるのではと思いました。「世界で 1 番貧しい人はインドにいる。しかし、1 番裕福な人もインドにいる。」と先生は言いました。理事長の家を訪問したとき、本当に素晴らしい家でした。一方で、観光していると物乞いをしている方も多々いました。このことから、先生の言葉の通りでした。インドでは農業に携わる人が減り、産業・サービスは増えています。大学の数は、なんと日本の大学の 10 倍以上の大学があります。これは急な上昇だそうです。そしてこれから、ますます増えると言っていました。昔は子どもがたくさん家庭が普通でした。しかし、今は 1 人っ子が多いです。今はかなり改善されていますが、女性が学校を辞めるケースが多かったそうです。その理由は、学校に女性用のトイレがないためだったそうです。これを聞いて驚きました。ローカルな人件費・ローカルな労働スキル・巨大な国内市場・強力な教育、これがインドの魅力であります。

(6) Cultural exchange programs について

私は、この国際文化研修のことを POST で見つけました。そして説明会に参加して、すごく楽しそうだなと思ったので親に相談して参加することを決めました。事前学習でインドについて少し学び、インドへ出発しました。向こうの空港に着けば、バスは用意されていて、向こうの大学のボランティアの方々が待っていてくれるし、毎日、朝食・昼食・夕食も出してくれて何から何までやってもらったなど感じました。私は、今回のインドが初めての海外でした。出発当日に近づけば近づくほど、緊張していました。しかし、京産の学生、ボランティアの方々、矢野先生や大学の先生などと話しているうちに緊張も無くなり、純粋に国際文化研修を楽しんでいる自分がいました。海外に行けば人生が変わるとか言われていますが、私は何も変わりませんでした。しかし、確実に言えることは、海外に行くことで日本では見たことないシーンに遭遇します。その経験は、これからの人生に生きてくるでしょう。私は信じています。

(7) 遠足 (Nashik と Mumbai) について

私たちが借りていたマンションから Nashik へ行くまで、かなりの時間がかかりました。遠足でとても記憶に残っている場所は、2つあります。1つ目は Pandavleni Caves という場所です。これは山の上にあるので、約 20 分のトレッキングによってアクセスが可能です。ここに何があるのかというと、洞窟がたくさんあります。とても神聖な場所だなと感じました。ここから見る街の景色は最高でした。現地の方もたくさん訪れるほど有名な場所です。あとは Mumbai に遠足で行きました。ムンバイはインドの中心都市の1つなので、人もかなり多く街が賑わっていました。ボランティアの方に、携帯と財布は出さないようにと注意を受けました。携帯や財布を持っているとわかった途端に近づいてきて盗まれる、と教えてもらいました。2つ目は、道中のマーケットです。右を見ても左を見ても、あらゆる店が連なっていて感銘を受けました。TV で観ていたアジアを巡る旅番組と全く同じような光景でした。マクドナルドやケンタッキーにも行きました。日本と同じメニューもありましたが、辛いものが好きな国でもあるのでスパシーなメニューがたくさんありました。

(8) ボランティアについて

10人のボランティアの方々が毎日、私たちの面倒を見てくれました。最初は、外国人にビビっていて話しかけられなかったが、ボランティアの方が先に喋りかけてくれて仲良くなることができました。インドの学校は授業が始まっていたので、ボランティアの方々は自分の授業を受けながら、私たちにヒンディー語やいろいろなことを教えてくれました。1人1人本当に個性のあるボランティアだったので、毎日がすごく楽しかったです。私たちがヒンディー語を学んでいるから、ボランティアの方々は簡単な日本語、挨拶などを頑張って覚えて、私たちに話してくれました。毎日、2人の学生が朝は迎えにきてくれ、放課後はマンションまで付いてきてくれ、遠足のときなどは、訪れた場所についてたくさんのことを教えてくれました。ボランティアの方々には、感謝しきれません。本当に、この10人のボランティアに出会えて良かったです。私の宝物です。彼らとは、帰国してからも SNS などで繋がっているので、よくみんなでやりとりをしています。

(9) 今後の文化交流について

私は、今回の国際文化研修で大幅にはないが成長したと自分で感じています。他の学生にも、ぜひ海外に行ってたくさんのことを学んでほしいです。これは、矢野先生が VPM 大学の理事長や先生と仲が良く、提携を結んでいるからできたことです。今、京都産業大学では海外の大学何校かと提携を結んでいます。難しいことだとは十分に承知していますが、提携を結んでいる大学ともっと交流するべきだと思います。インドに行ったことで、日本との文化の違い、インドとは、どんな国なのか。これはニュースや新聞でもわかるが、自分の目で確かめるのがベストだと思います。海外の大学生を京産へ招いて、日本・京都のことを自分の目で確かめてもらうということが大切なのではないかと感じました。私たちが、海外の現状を知り、海外の学生に日本の現状を知ってもらう。これが、今後の課題かなと私は考えます。

(10) 矢野先生へ

国際文化研修の2週間、短い間でしたが本当にありがとうございました。ボランティアの方々のサポートは、とても助かりましたが、やはり矢野先生のサポートがあったからこそ楽しかったのだと思います。部屋に戻ってやることあるにもかかわらず、ヒンディー語の宿題を教えてくれ、向こうの学生や先生などに披露した踊りでは、真っ先にパソコンに曲をダウンロードしてくれました。向こうの先生の英語が難しかったら、すぐに通訳してくれ理解できたことも多々ありました。たくさん学生や先生の前で矢野先生は講義をされました。英語で、あれだけのことを説明できるなんて素晴らしいと思いました。学生に質問を受けても、すぐに英語で返していたので尊敬しました。矢野先生くらい話すことができれば、留学ももっと楽しくなるだろう。矢野先生に出会えて本当に良かったです。最後に、矢野先生と一緒にインドに行った9人のことは絶対に忘れません。最高の仲間であり、夏休み最高の思い出になりました。